

英語科学習指導案

指導者 森澤 葉子

日時 令和4年11月19日(土) 第1校時 9:20~10:10

年組 中学校 第3学年2組 計39名(男子18名, 女子21名)

場所 中学校3年2組教室

単元 Be Prepared and Work Together / NEW HORIZON English Course 3 (東京書籍)

単元について

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)外国語科の(3)話すこと[発表](ウ)及び、話すこと[やり取り](ウ)に重点を置き、社会的な話題について聞いたり読んだりしたことから、自分の考えや気持ちなどを話したり、相手からの質問に対して適切に応答したりする活動を行う。題材としては防災が取り扱われている。日本に住んでいる外国人に対し防災について調査を行い、その結果から分かったことや、地震に遭った時に外国人がどのようなことに困るか、また外国人向けの自治体の防災訓練についての英文を読む中で、防災・減災への意識を高めるとともに、誰もが安心して暮らすことのできる社会にするために中学生の自分たちにできることを考えさせることができる。単元末のパフォーマンス課題に向けて、避難所までの正確な道順を教える活動、家庭でできる防災の取り組みを考える活動、防災に関する知識を習得する活動を仕組み、正確な情報を相手に伝える力と、防災について自分にできることを考えさせ、構成を整理して説得力のある意見を伝える力を育成する。

防災に関する知識をまとめて共有し、地域の一員として防災に取り組む意識をもたせるために、単元末では簡単な南区の防災マップを班ごとに作成する。作成時の工夫として、2年次で学習した Universal Design の「必要な情報がすぐ理解できる」という視点を取り入れる。また、NHK アーカイブスにある東日本大震災で被災した外国人の体験談を聞いて、母語1つとっても様々なバックグラウンドを持つ外国人が日本に住んでいることや、彼らの困り感を知り、防災マップは英語が母語話者ではない外国人にも分かりやすい、やさしい日本語と英語で作成することとした。やさしい日本語で作成する際のヒントとして、外部講師を招き、やさしい日本語とはどのような視点で考えるとよいか講話をしてもらった。

生徒はこれまで理由をつけて自分の意見を述べる活動を何度か行ってきた。その際、一般的でありきたりな意見を述べる生徒の割合が多かった。言語材料としては間接疑問文と後置修飾が取り扱われており、説明する際に使える表現を学習することができるため、指導の際には意見を述べるときに使える表現や、事実やデータを用いて自分の意見につなげていくという活動を通し、単元を通して社会的な話題について事実や根拠を元に、理由をつけて自分の意見を述べる力をもつことを育成する。自分の考えや伝えたいことを自分の言葉で表現できる力を身に付けさせることによって、将来国際社会で活躍できる人材を育成していきたい。

指導目標

- ・ 標識の意味や災害時に必要なものについて、正確な情報を理解できるようにする。
- ・ 防災について事実や根拠を元に、理由をつけて自分の意見を述べられるようにする。
- ・ 誰もが安心して暮らすことのできる社会にするために、自分にできることを考え、班のメンバーと協働して地域貢献の一環として学習活動に取り組むことができるようにする。

指導計画（全 13 時間）

次	時	学習内容
1	1	・ 道徳（防災）
2	2	・ Scene 1
	3	・ Scene 2
	4	・ Read and Think 1
	5	・ Read and Think 2
3	6	・ やさしい日本語講座
4	7	・ 相手の意見を聞いて自分の主張を述べる
	8	・ 自分にできることを，具体例とともに述べる
	9	・ 三角ロジックを使って防災について自分にできることを述べる（本時）
5	10～13	・ 防災マップ作り

本時の目標

外国人が困ったことを読み取り，自分にできることを考えて表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】

「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力」との関連

防災について自分事として捉えさせるために，日本に住む外国人にアンケートを取ったり，外部講師を招いたりする活動を仕組み，生活と結び付けられるように単元末の成果物として簡単な防災マップを作る活動を取り入れた。【授業構想力】

ICT を効果的に活用した言語活動を組んだ。【授業実践力】

学習の展開

学習活動と内容	○指導上の留意点（◆評価）
導入（10分） あいさつ 1. 1min. chat を行い振り返りシートに記入する。	○言いたかったけど言えなかった表現や，できるようになったことを記入させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【課題】 外国人が困ったことを読み取り，自分にできることを考えて表現することができる。 </div>	
展開（25分） 2. 前時の復習をする。 三角ロジックの使い方の review	○Data と Reasoning の部分に何を入れたらよいか復習させる。

<p>3. 日本に住む外国人にとってアンケート結果を見て三角ロジックに当てはめる。 Claim, Data, Reasoning の部分に入る表現を考えて記入する。</p> <p>4. ペアで発表する。</p> <p>まとめ (10分)</p> <p>5. 三角ロジックシートを iPad で撮影してロイロノートに送る。</p> <p>6. 振り返りシートを記入する。</p> <p>7. 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○三角ロジックのどの部分に入るか考えさせる。</p> <p>○調査結果を読み取り, Data と Reasoning の部分に入る表現をメモするように指導する。</p> <p>○発表で使える表現をロイロノートの資料箱に入れておく。</p> <p>○相手の意見の良いところを見つけるように指導する。</p> <p>◆ 事実や根拠を元に自分の意見を述べている。 【思考力・判断力・表現力等】</p>
--	--

授業の分析

本単元は防災がテーマだったため、授業構想力では生活と結びつけることを1つの柱として単元計画を作成した。生徒の振り返りから、家族と防災について話をしたり、実際に自分で非常用持出袋に必要なものを考えたりしており、自分事として捉えることができたことが分かった。コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に提示することで、深い学びにつながった。外部講師を招いて講話を開いたり、道徳の授業で防災を取り扱ったりと、英語だけではなく教科横断的に単元を進めることができた。

○成果

スピーチテストや定期試験で自分の意見を表現する際に、「大切だと思う」「よい考えだと思う」といった一般的でありきたりな意見を表現する生徒が多く見られ、自分にしかないオリジナルの意見をもつことを指導してきた。今回は資料の提示方法がうまくいかなかったため、「助けるために何ができるか」という意見に偏ってしまったが、その中でもオリジナルの意見を見ることができた。

防災の単元を生活と結びつけて考えさせ、単元末には南区の防災マップを作成し、地域の公民館に展示してもらった。様々なバックグラウンドをもつ人々が暮らす中で、誰もが安心できる街作りを生徒の視点で考え、防災・減災への意識を高めることができたことは1つの成果である。

また、単元末の防災マップの作成や振り返りを行う際の手立てとして、今回は振り返りシートを1枚ものにして、学びの足跡を見える化した。授業構想力の一環としてこのような形にしたが、可視化させることで生徒が振り返る際に大いに役立った。

●課題

初発の英文を提示して、事実や根拠をもとに自分の意見や考えを表現させたかったが、生徒に何をさせて、どのような力を身に付けさせたいのかを明確にした上で資料を提示する必要がある。「助けるために何ができるか」ではなく、「どう思うか」という問い方にしたら、幅広い意見が得られたと思う。

また、資料から読み取れる情報を整理するために三角ロジックを用いたが、シンキングツールを使わせる意図や方法を明確にイメージした上で生徒に提示する必要性を改めて感じた。

〈生徒の振り返り（一部抜粋）〉

災害時の行動を外国人に伝えるために、難しい語をどう言い換えるか考えました。また、災害に遭ったとき自分にできることについて、ありきたりな意見ではなく、自分らしさがでるような意見を考えることが大切だということ学びました。

日本人だけが安心できるだけでなく、外国人にも分かってもらえるようにするためにはどうすればよいかを考えることの大切さを知りました。他国の人・他人のことをしっかり考え、誰もが安心な暮らしにすることは難しいかもしれないけど、一人一人がそう思うことが必要だと思いました。また、家で備えておかなければいけないものも改めて確認することで、普段の生活も見直していく必要があると思いました。

具体的に説明するというより、簡潔に正確な内容を伝えることを意識して学習しました。言語が通じない外国人にとっても日本人にとっても共通して認識できるピクトグラムが存在は改めてとても重要な役割をもっていると実感できました。英語で大切な要点をピックアップして伝えられたと思います。防災について自分にできることを説明するときは、自分の意見だけでなく、それに加えて根拠も言えるようにしたり、文をつなげる際のフレーズをもっと知りたいと思いました。単元を通して災害が起る前に事前にどのように外国人に伝えたら困らないか推測しながら話す内容の順序やシンプルな単語、文と文のつながりを意識することで、伝わりやすい英文の組み立てを学べたと思います。

標識の説明ができるようになったので、災害時に外国人に説明をしてみたいです。防災のために必要なこともたくさん学べたので、被害を最小限に抑えるために、非常用持出袋に必要なものを考え、実際に非常食を買いに行きました。日頃から準備をして、自分だけではなく、たくさんの人を救いたいです。

今後に向けて

授業構想力については、今回1単元に盛り込みすぎてしまったため、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、内容を取捨選択する必要がある。1分間チャットは授業内容に関連するテーマで行っているが、生徒の困り感を予め予想して準備しておくことも必要であると感じた。共同研究の先生からは、1分間チャットを録音し、すぐ振り返りシートに記入させることで、次の学びへつながると指導助言をいただいた。ICTを上手く活用し、振り返りを充実させ、話すことの技能を向上させていきたい。

国際社会で活躍するためには、自分の意見や考えをもち、それを発信する力が必要であると考えている。そこで、次年度は話すことの中でも即興性を高める活動を仕組んでいきたい。